

2017年 5月20日
NPO法人 森を再生する会

水源の森を守ろう！ 取り戻そう！

— 目 次 —

・水源の森づくり 15年	1 P
・平成 28 年度の活動概要	2 P
・この一枚～観察会写真～	4 P
・随想～いのち輝いて生きること	5 P

・アサリの不漁は何を語っているか	5 P
・ヒノキ製まな板のプレゼント	5 P
・お別れ	6 P
・寄付のお礼	6 P

水源の森づくり 15年

神谷輝幸

平成12年にNPO森を再生する会を設立して15年が経過しました。生態学者宮脇昭先生が進めておられた「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」に感銘を受けて、安城市のこの地から実践しようと思ったものです。ところが、都市化していく安城市で始めるのは、植樹場所の問題等でうまく進みませんでした。そこで私たちは、山での水源の森づくりに大きく舵を切りました。

その頃、炭焼きの会を進めておられた故斉藤さんから自分の山を使って水源の森にしてもらってもよいとの申し出を受け、設楽町で水源の森づくりを始めました。その後、作手村や安城市の池浦西公園や東浦町でもいのちの森植樹を進め、合計13,000本の木を植えることができました。

水源の森は大変公共性の高いものです。個人所有の山は、地主の生活収入を得る目的で行われます。したがって、水源の森づくりは市町村や県・国の事業として行うことが理にかなうというものです。そのことが分かっているのに、なぜ私たちNPO法人が水源の森づくりを行っているのでしょうか。私たちは山仕事を行い、実際自分の目で山を確認し、山の古老の話を聞くに従い、スギ・ヒノキの人工林が危機的な状況にあることや水資源が貧弱になっていることを実感し、気が付いたものから水源の森づくりをしないと手遅れだと気づきました。

この運動を進めることによって、多くの人たちのご賛同を得たことは何よりの収穫であり喜びであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

平成28年度の活動概要

写 真	内 容
	<p>行事名：間伐指導会 日時：平成28年4月24日 8：30-16：30 場所：愛知県北設楽郡設楽町 下山参加者数：14名 指導者：杉野賢治 ※トヨタ自動車若手社員4名の参加があった。ホームページを見て、本会の活動を選んでくれた。</p>
	<p>行事名：間伐指導会 日時：平成28年5月22日 8：30-16：30 場所：愛知県北設楽郡設楽町 下山参加者数：8名 指導者：杉野賢治</p>
	<p>行事名：間伐及び間伐材刻み作業 日時：平成28年6月26日 8：30-16：30 場所：愛知県北設楽郡設楽町 下山参加者数：4名</p>
	<p>行事名：皮むき&間伐 日時：平成28年7月24日 8：00-17：00 場所：愛知県北設楽郡設楽町 下山 参加者数：8名</p>

写 真	内 容
	<p>行事名：間伐材片づけ・搬出 & 植樹準備</p> <p>日時：平成28年10月2日 8：30-17：00</p> <p>場所：愛知県北設楽郡設楽町 下山</p> <p>参加者数：7名</p>
	<p>行事名：間伐材片づけ・搬出 & 植樹準備</p> <p>日時：平成28年10月16日 8：30-17：00</p> <p>場所：愛知県北設楽郡設楽町 下山</p> <p>参加者数：9名</p> <p>写真右＝間伐材運搬車</p>
    	<p>行事名：面ノ木原生林自然観察会</p> <p>日時：平成28年10月23日 8：30-17：00</p> <p>場所：北設楽郡設楽町津具高 笹3-67</p> <p>参加者数：25名</p> <p>新城事務所から調査があった。</p> <p>写真説明 上左＝自然観察 上右＝加藤博俊さんに質問する参加者 下＝アグリステーションにて面ノ木原生林について講師の加藤博俊さんから講話聞く参加者</p>

写 真	内 容
	<p>行事名 :植樹&ドングリ蒔き 日時 : 平成28年11月27日 8 : 30-17 : 00 場所 : 愛知県北設楽郡設楽町 下山 参加者数 : 15名 写真説明 上左 = ネット張 説明、上右 = ドングリ蒔き 下左 = 竹炭散布 下右 = 獣害防止ネット設置</p>
<div data-bbox="319 878 604 999" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>スギ間伐材作っ た小物掛け→</p> </div>  <div data-bbox="604 1189 892 1337" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>←ヒノキ間伐材 でつくったまな 板</p> </div> 	<p>行事名 :面の木原生林写真展 及び間伐材で作った作品</p> <p>日時 : 平成28年11月1日～ 12月28日 場所 : 安城市環境学習センタ ー 参加者数 : 52名</p>

この一枚 ～面の木原生林観察会写真展より～

天狗棚山山頂から撮った写真です。尾根の道を境に左側がスギ・ヒノキの人工林、右側がブナを中心にした原生林です。森林の中の明るさの違いがよくわかります。原生林の森は明るく気持ちよく、動物たちも幸せに生きられる森です。



—田中常一さん提供—

随想～いのち輝いて生きること～

神谷輝幸

今、私は「自然栽培」にはまっています。私が興味を持っていることはすべて自然相手です。雑草や虫や微生物などと向き合うと毎日が発見でワクワクします。

私はこの10年間ほど5～10群のニホンミツバチを飼育していました。しかし昨年からは異変が起こり、現在は我が家のニホンミツバチは全滅しました。原因として、アカリンダニ、ネオニコチノイド系農薬、地球温暖化の3つが考えられます。虫や魚や鳥たちの小さな命が消えていくことは人間もやがて消えていく運命であると、予告しているように思えてなりません。いのちあるものは動物であろうと植物であろうと38億年前にさかのぼれば、地球上のすべての命はたった一つの細胞から発生し、みな兄弟なのだということがDNAに書いてあるそうです。自然栽培は農薬も化学肥料も一切施さない農法で、動植物一切のいのちを奪わない農法です。

人間同士だけでなく、すべての生き物を大切に扱う畑に向かい、美しい夕日の中で、一日を感謝する気持ちで毎日を過ごしたいと念じています。

三河湾のアサリの不漁は何を語っているか

今年は、三河湾のアサリが不漁だと言われます。その原因としてアサリに菌がついているというような説が流布しています。

北海道の襟裳岬はコンブ漁が盛んです。ところが江戸時代後半からコンブ漁を求めて人々が移住し、開拓農民の移住も加わって、人々は家を作り、暖を取るなど生きるために森の木を伐り続けました。その結果、森はやがて失われ一帯は砂漠となりました。と同時にコンブの生育が目に見えて悪くなり魚も姿を消しました。森が消え、海は死にました。

ところが人々は強風によって家の中まで侵入する砂から解放されたいという願いから緑化事業を始めました。40年かけて草を植え、防砂林を作ることによって、海にコンブや魚が戻ってきたことに気づきました。

森がつくる腐植土を通った水は海藻や植物プランクトンが吸収できる鉄分を含み、海を栄養豊かにします。このメカニズムを解き明かしたのは北海道大学の松永勝彦教授でした。それ以降、北海道漁連に漁師たちは北海道全域の山に木を植える運動を巻き起こし、現在も続いています。

三河湾に流れ込む豊川、矢作川の上流の山は、スギ・ヒノキの放置林で死んだ森となっています。森が死ねば海も死にます。三河湾のアサリそのことを訴えているような気がしてなりません。

ヒノキ製まな板のプレゼントします

わが家の台所は、ヒノキのまな板が活躍しています。納倉の山から間伐材を切り出し、杉浦建築で製材して、会員の皆さんにも配布しています。ヒノキは、香りもよく

包丁にも優しく肌触りもよく主婦に喜ばれています。ヒノキの木片を風呂に入れればヒノキ風呂の気分になれます。ヒノキの加湿器も市販されています。会員の中には、今年、五平餅の櫛をスギの間伐材で自作して使う予定です。秋葉いこいの広場・環境学習センターでは、ヒノキの間伐材がものかけとして活躍しています。間伐材を加工したものが欲しい方は、お申し出ください。

永遠のお別れ—訃報—

森を再生する会設立から今日まで、本会を支えていただいた矢作緑化株式会社取締役ゴルフ事業本部長の森下芳樹さんが急逝されました。数年前、東京支店長ご栄転されたときもいつも心に止めていただき、名古屋本店村上常務取締役さんを紹介していただき、数回お会いし、何かお手伝いできないか、話し合ったことを思い出します。その部長さんも数年前に急逝されがっかりしていました。2年前、東京支店長から名古屋本店の取締役にご栄転になったときも、部下の出口さんを伴って、安城までご挨拶に来ていただきました。お会いするたびに温かいまなざしで応援の言葉をかけていただいたことに勇気をいただいていた。これからもいろいろとご支援いただきたいと期待していた矢先、突然の訃報を出口さんから頂き愕然としました。これまでのご支援に心から感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。合掌

平成29年度水源の森づくり活動計画

- 5月21日（日）巻きがらし間伐（納庫水源の森）
- 6月25日（日）巻きがらし間伐（納庫水源の森）
- ※ 7月9日（日）「千年の森」自然観察会（設楽町）
- 8月22日（火）巻きがらし間伐・スギ搬出（納庫水源の森）
- 8月27日（日）間伐（納庫水源の森）、間伐効果調査
- 9月24日（日）間伐（納庫水源の森）
- 10月29日（日）植樹&獣害防止ネット設置
- 11月26日（日）ドングリ蒔き、間伐材搬出
- 12月17日（日）間伐材加工体験・まな板など

※ 「千年の森」は、設楽町の加藤博俊さんが個人で山を買い、未来を担う地元の小学生と一緒にブナを中心とした原生林を作っておられる水源の森です。是非ご参加ください。会員の皆さん、お知り合いを誘ってご参加ください。歴史博物館8：00集合です。

☆本年度 NPO森を再生する会へ寄付をいただいた方々☆

次の方々からご寄付をいただきました。（寄付受付日付順）

神谷 守様	3, 000円
神谷俊治様	10, 000円
遠山松枝様	18, 000円

深く感謝申し上げます、山を購入する基金として積み立ててまいります。